

入試改革「学力評価テスト」 英語は外部検定を活用！

当面は2技能、将来的には4技能を全面利用！

旺文社 教育情報センター 28年9月9日

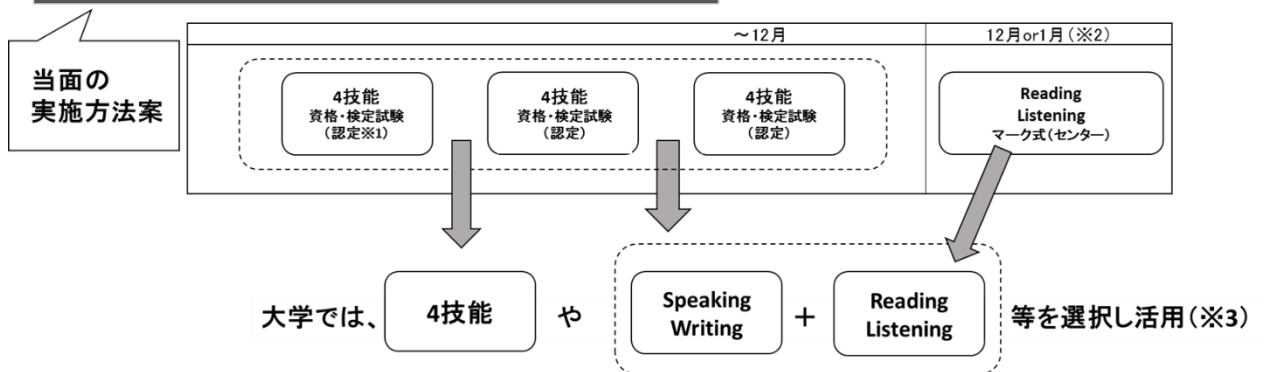
文部科学省はこの度、高大接続改革の実現に向け、「進捗状況」を発表した。その中で現在の大学入試センター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下「新テスト」という。）の英語について、英検やTOEFLなどのような外部検定を活用する方針が示された。

●民間が実施する外部検定の活用について

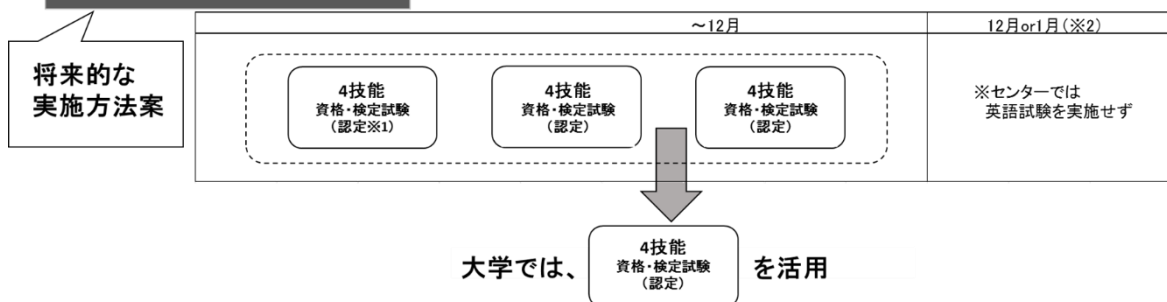
「進捗状況」によれば、民間によって既に実施実績のある外部検定の中から、大学入試における4技能の測定に相応しいものを国が認定し、大学はその中から入試に活用するものを選択するという方法が考えられている。現在検討されている活用方法は以下の2つだ。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の英語4技能評価の実施形態について（たたき台）

【1】英語4技能（2技能）の資格・検定試験活用+2技能のセンター実施



【2】4技能の資格・検定試験活用



※1 認定基準に応じて、①既存の資格・検定試験のカスタマイズ、②新規の資格・検定試験の導入もありうる。

※2 センターが実施する時期については、12月と1月の双方が考えられる。

※3 大学においては、いずれか（又はその組み合わせ）の活用方式を選択し公表（選抜実施要項に明記）。

※文部科学省資料より作成

当面の実施方法案では、新テストで現在のセンター試験と同様に「読む (Reading)」「聞く (Listening)」の2技能の試験を実施し、「書く (Writing)」「話す (Speaking)」については国が認定した外部検定を利用する。大学は4技能ともに外部検定を利用することも可能だ。また、将来的には新テストでは英語試験を実施せず、4技能ともに国から認定を受けた外部検定でまかなう案もあげられている。

●英語4技能測定に向けた課題

高大接続システム改革会議の「最終報告」(3月31日)の段階では、新テスト独自で4技能測定を行う可能性も示されていた。これが「進捗状況」では特に「書く」と「話す」の測定について外部検定の活用に向きを定めようとしている。独自の試験での4技能測定から舵を切った最大の要因はおそらく「受験生数」だろう。昨年度でいうと約56万人の受験生に対して、試験をどのように実施・採点するのかが大きなハードルとして立ちふさがっている。特に「話す」試験の実施方法と、「話す」「書く」試験の採点方法が課題といわれている。

「話す」試験の実施には受験者1名あたり10分程度かかると見積もられているが、56万人が受験するための時間の確保、また試験官と会場の確保も問題となる。採点にあたっては、採点官の確保と同時に採点基準の統一化が重要になる。どの採点官が採点しても同じ得点となる基準の設定と、採点官のトレーニングをどのように行うか検討する必要があるのは明らかだ。

●大学入試利用における課題

新テストで利用できる外部検定は国が認定する構想となっているが、それはどのようなラインナップになるのだろうか。ここでは主な検定の年間の受験人数、受験料、試験会場の数、年間の実施回数を比較してみた。

	実用英語技能検定 (英検)	TEAP	IELTS	TOEFL iBT	TOEIC (L&R)(S&W)	ケンブリッジ英検	GTEC CBT
受験人数	約263.5万人 (H26年)	約1.3万人 (H27年)	約3.6万人 (H27年)	非公表	約240万人(L&R) (H26年) 約2.4万人(S&W) (H26年)	非公表	非公表
受験料	5,800円(2級) 4,500円(準2級)	15,000円	25,380円	230USドル	5,725円(L&R) 10,260円(S&W)	11,880円(PET) 9,720円(KET) (試験センターによって異なる場合あり)	9,720円
試験会場 (全国)	約17,400会場	約30会場	16会場 (実施日によって異なる)	90会場 (実施日によって異なる)	最大256会場(L&R) (実施日によって異なる) 最大30会場(S&W) (実施日によって異なる)	10会場	57会場
実施回数 (年間)	3回	3回	35~40回	40~45回	10回(L&R) (受験地による) 24回(S&W) (受験地による)	2~3回 (試験センターによって異なる)	3回

※文部科学省資料より作成

国から認定を受けるうえで重要な要件と想定されるのが、①学習指導要領に沿った出題内容、②試験地の公平性、③経済的負担の少ない検定料の3つだ。さらに「進捗状況」では各外部検定について「カスタマイズ」や「新規の資格・検定試験の導入」もありうるとしており、今後、各検定の実施団体は少なからず対応が必要になるだろう、

また今後、入試の合否判定がどのような仕組みになるのかも注目だ。現状、新テストの成績は「マーク＝素点」「記述（当面は国・数のみ）＝段階別」とされている。それに加えて英語は外部検定を利用となると、各検定は級やスコアで成績表示が異なり、さらにそのうち2技能は当面、新テストでも実施となると合否判定は混迷を極める。こうした入試システムとしての全体整理も、こらからの重要な検討案件だ。